

## 血液浄化療法部概要

【移転年月日】：平成 23 年 11 月 21 日（新築移転し診療を開始）

【移 転 場 所】：琉球大学医学部附属病院内（血液浄化療法部）

【診 療 体 制】：専任医師 5 名（部長 1、助教 1、医員 3）

血液透析は月～土（外来透析）実施

【移転・拡充の目的】

沖縄県では約 4,200 名の慢性透析患者が主に血液透析をうけている。患者の高齢化が進み、県内の透析施設から手術、検査目的で入院を要する患者が増加している。これらの入院透析の需要に応えると同時に県内の多くの施設と協同してスタッフの教育、訓練の機会を設けることを目的としている。

【必要性・重要性】

沖縄県で唯一の医育機関である本学において看護師、医師が血液透析（CAPD 療法も含む）に関する知識、経験を蓄積する意義は大きい。正確で最新の医療情報および技術を伝達、発信の場所が必要である。

【研究への取組】

患者の高齢化、合併症の複合に伴うハイリスク透析患者の対処法、病態など臨床的研究を主に行う。また腎不全以外の血液浄化療法が有効な疾患にも取り組む。

【教育への取組】

学生、研修医の臨床修練の場を提供する。日本腎臓財団の透析技術者研修指定施設として看護師、臨床工学士などの実習、見学を受け入れる。腹膜透析はシミュレーションセンターとも協力してスタッフの教育指導に当たる。

【診療への取組】

透析ベッド 20 床をそなえ最大 80 名の透析が可能となる。現在、15 名程度の外来通院透析患者も 30 名程度まで受け入れ可能となる。国立大学の透析部門では全国一の規模となる。